

AJ

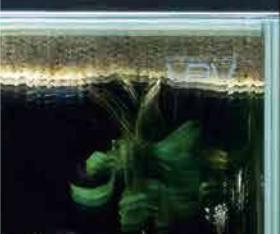
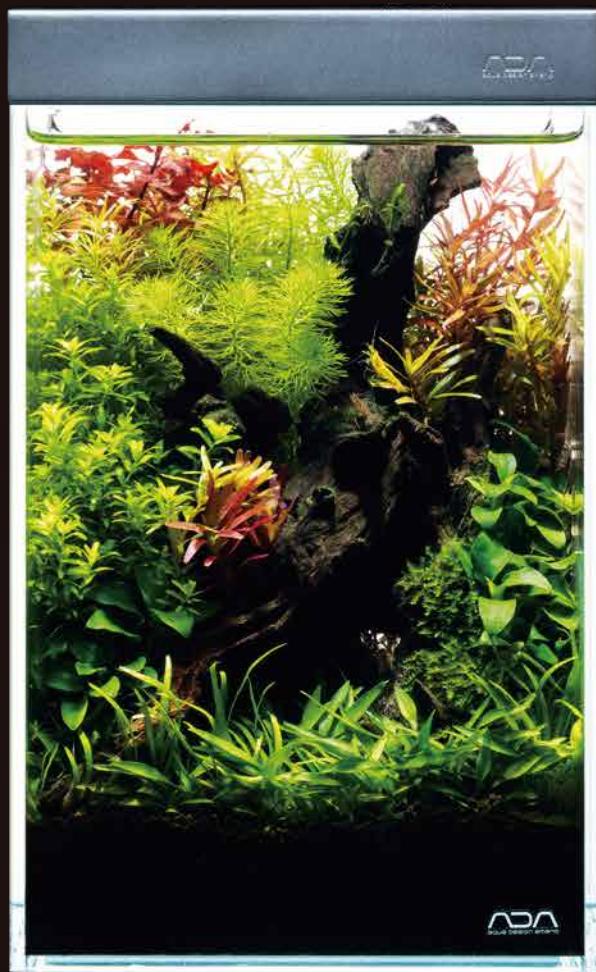
AQUA
JOURNAL

30th Anniversary

vol.

345

Aqua Design Amano
Information magazine
Jul. 2024 100YEN





BELOW WATER

OLIVER LUCANUS — Photo & Text
オリバー・ルカヌスが贈る水中世界 Vol.3

水中の赤い「のぼり」

小さな泉の流れの中で、ポリゴナムの仲間の鮮やかな赤い葉が「のぼり」のようになびいている。上流からのきれいな湧き水によって、この場所は一年を通じて水が透き通っている。この壯観な小川は、レモンテトラやオブリクアの生息地でもある。

[撮影地]
タバジョース川上流
[生物]
Polygonum sp.

OLIVER LUCANUS

オリバー・ルカヌス (54)
ドイツ、バイエルン州生まれ。30年以上に渡り、世界中で魚の棲息環境を撮影し続けている。『Xingu Below Water』など写真集を発刊。カナダ、モントリオール在住。IEPA会員。



CREATOR WORKS

Naru Uchida

NATURE AQUARIUM W1,200 x D500 x H500 (mm)



©AQUA DESIGN AMANO

ADA
Aqua Design Amano

〔ヒーリング・ブッシュ〕構図骨格は極力シンプルに組んで、そこにHyg.ピンナティフィダを活着させ、背景の有茎草の生長の勢いに任せてアボリジナルアートのような表現を試みた。各種水草の色彩が入り混じり、水槽の四隅を埋め尽くす様子は狙い通りであった。



CREATOR WORKS

Naru Uchida
NATURE AQUARIUM W1,200 x D500 x H500 (mm)

植栽



2023年1月30日撮影

完成



2023年3月29日撮影

©AQUA DESIGN AMANO

D A T A

制作日 2023年1月30日
撮影日 2023年3月29日
制作 内田成(ADA SUKEI CREATOR)
水槽 キューブガーデン W1,200×D500×H500(mm)
照明 ソーラー-RGB ×2(1日8時間30分点灯)
ろ過 スーパージェットフィルター ES-1200(バイオリオG)
素材 山谷石、ホーンウッド
底床 アクアソイル-アマゾニア Ver.2、パワーサンド・アドバンスM、バクタ-100、クリアスパー、トルマリンBC

水草 ❶ロターラ sp.Hra (BIO) ※
❷ロターラ・ロレンジフォリア 福建省
❸ロターラsp.レディッシュ
❹ロターラsp.フラワー
❺グリーンロターラ (BIO) ※
❻セイロンロターラ (BIO) ※
❼ハイグロフィラ・ボリスヘルマ (BIO) ※
❼ハイグロフィラ・ピンナティフィダ (BIO) ※
❼ルドヴィジア・イルトリコロール
❼ルドヴィジア・スバーレッド
❼ルドヴィジア・フレビペス
❼ルドヴィジア・グラントュローサ
❼ニードルリーフルドヴィジア (BIO) ※
❼イエロー・アマニア
❼ボゴステモン・テカニンシス

❾ニユーオランダプラント
❿アルテルナンテラ リラキナ
❿ウォーターバコバ
❿バールグラス (BIO) ※
❽スクワロギネ・レベンス (BIO) ※
❽ショートヘアーグラス (BIO) ※
❽ピグミーマッシュルーム (BIO) ※
❽グロッソスティグマ (BIO) ※
❽ウイローモス(モスバッグ) ※

Limnophila hippuridoides
Alternanthera reineckii "Lilacina"
Bacopa caroliniana
Micranthemum glomeratum
Staurogyne repens
Eleocharis parvula
Hydrocotyle elatiniifolia
Glossostigma elatinoides
Taxiphyllum barbieri
Melanotaenia kamaka
Melanotaenia sahlensis
Chilatherina sentabensis
Crossocheilus oblongus
Otocinclus sp.
Caridina multidentata

CO₂ バレングラス・ビートル 400、CO₂ビートルカウンターで1秒に5滴(タワー使用)
AIR リリィパイプP-6によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分
添加剤 ブライティK、グリーンブライティ・ミネラル、グリーンブライティ・アイアン、グリーンブライティ・ニトロ
換水 1週間に1度1/3
水质 水温25°C pH:6.4 TH:50mg/L

魚種
メラノタエニア・カマカ
メラノタエニア・サフレンシス
キラセリナ・セタニエンシス
サイヤミーズフライングフォックス
オトシンクルス
ヤマトスマエビ

※はADA生体製品ラインナップです。

SUIKEI CREATOR INTERVIEW

内田 成 Naru Uchida

アボリジナルアートに感化された水景表現

—— 今回の水景制作ではオーストラリア旅行が刺激になったとお聞きしましたが、詳しく聞かせてください。

2022年の暮れにプライベートでオーストラリア旅行に行ってきました。そのときに中央砂漠に行く機会があり、有名な景色ですと世界最大級の一枚岩として知られているエアーズロックやカタジュタです。地球のへそとも言われている大きな岩盤があり赤く乾いた大地が広がっていました。そこで見た草木が芽吹いてる世界。砂漠なので乾燥した荒涼なイメージを持っていたのですが、実際に行ってみると生命が芽吹く姿やたくさんの動植物を観察することができました。そういう世界をネイチャーアクアリウムにうまく落とし込めないかというちょっと遊び心からスタートした水景制作でした。

—— そうしたオーストラリアの自然のイメージをどのようにして水景に取り込んだのでしょうか。

オーストラリアでは先住民族（アボリジニ）のアートとしてアボリジナルアートが知られていますが、その制作プロセスとして自然の要素（情報）を取り入れるということがあるのです。たとえばカンガルーが生息しているエリアはどこかとか、水源はどこかとか、雨をしのぐ場所はどこかみたいなものが、一つの絵の中に情報として隠されてるのです。我々が見るとただの絵に見えるのですが、アボリジニの方々からするとそれが地図に見え

ますし、川や湖もあるし、草木も生い茂っていました。そんな実際の景色を自分の目で見たときに子供のころから見ていたアボリジニの絵の疑問が解けたという不思議な感覚を覚えました。自然から得たモチーフというかエッセンスをキャンバスとか水槽に人間のエネルギーで吹き込むという点で共通した感覚があり、水景クリエイターとして新しい挑戦をしてみたりました。

—— たとえばそうした別ジャンルのアートから影響を受けることで水景制作にはどう作用してくるのでしょうか。

別に悪いわけではないですが、優れた水景作品に感化されて制作しただけの水景って平凡になってしまふんですよ、少なくとも私の場合は。確かに上手くレイアウトはできるのですが、それ以上にはなりません。でもその人の今までの体験、たとえば絵画に感動したとか、料理が美味しかったとか、音楽が心地よかったとか、そうした自分の中の感情を上手くネイチャーアクアリウムの世界に落とし込めたら、自分しか表現できない世界觀が生まれるのではないかと思っています。もちろん自然での体験は最もレイアウト表現に結びつきやすいと思いますが、それに加えていろいろなジャンルのアートに触れることはいい刺激になると思っています。何でも最初は模倣から入ると思うのですが、ある程度経験を積めば上手なものって誰でもつくれるようになります。しかし、そこから先に本当の難しさがあるのです。自分らしさというか人間性が備わっていることが、作品の価

値になるのではないか、と近頃思うようになりました。

—— 水景クリエイターの方々の作品を見ると、人間性というか個性が出ているな、と感じることがありますね。

そうですか。我々はADAの水景クリエイターとして、やはりアート的な要素も水景表現の中に必要だと思っています。また今は5人いるので、作家性というかそれぞれの個性も必要です。そのため今回のアボリジナルアートからエッセンスをいただいたように自分にしかできない制作アプローチを確立していくこともこれからの課題であり、さらに追求ていきたいと思っています。

—— では具体的なレイアウト構成についてですが、この作品では構図素材がほとんど見えないようになっていますが、そこは狙ったものなのでしょうか。

これについては水草の力に任せようと狙ったもので、構図はできるだけシンプルにして水草たちが最終的に水槽の四隅を埋め尽くしていくような水草の勢い、生命力を表現できればと思いました。

—— 水草ではHyg.ピンナティフィダの印象が強いですが、流木にはどう配置したのでしょうか。何か作意的な意図などはあったのでしょうか。

構図骨格は3本の直線的なホーンウッドを使って、若干角度をそれぞれ左右広い範囲で散らしているのですが、ここに着生植物が繁茂しているというイメージを持って構図を組んでいます。その着生の法則性ができるだけ作意的にならないかという点が難しいところですが、構図を組むときに着生させる水草の特徴や生長方向などをしっかり考えて制作する必要があります。こうしてHyg.ピンナティフィダを着生させることによって、その着生の様子からも一つの世界觀が生まれるものだと思います。また長期維持のことを考えると構図は

できるだけシンプルに安定した状態で組むことが大切です。これがしっかりできていないと最初の半年はすごくきれいですが、それ以降は水景が崩れていってしまいます。安定した構図とそこに着生させた水草が将来殖えたときの様子を私はイメージして制作しています。

—— では中景から背景の色彩とそのバランスについて教えてください。

一般に有茎草はきれいに分けして植栽しますが、ここではあえて混ざり合うことを想定して植栽を行いました。なぜかと言うと、全体を引いて見たときに何色でもない色にしたかったからです。いろいろな絵の具をパレットの中で混ぜたようなイメージです。そしてトリミングを繰り返していくと、徐々に植栽した水草たちが自然と混ざり合ってきます。10種類ぐらいの有形草を使っているのですが、いろいろな水草が点在して個々の印象を感じにくいというか、何色でもない感じにしたいと思っていました。トリミングをする度に水草の混じり合う色彩が変化し、それが自分が予想もしなかった混ざり方をする面白さです。水草の力を感じます。こうした印象が抽象画のアボリジナルアートの世界のような雰囲気をつくれて狙い通りになったと思っています。

—— メンテナンスでは難しい点はなかったのでしょうか。

やはりトリミングでしたね。この水景ではトリミングラインを描くようなカットの仕方ではなくて、ルドヴィジアやバコバなどはその頂芽を狙って摘み取るようなカットを行ったり、その都度水草の種類や状態を見ながらカットの仕方を変えていました。そうして管理をしていくと、各種有茎草の全体のバランスが比較的均等化というか落ち着いていくのです。ただ有茎草の混じり具合とかその全体のバランスというのは明確に決まつたものではなく、私の感覚による部分が大きいためメンテナンスを担当してくれるスタッフとその感覚を共有するのが難しかったと思います。また撮影を行った段階の水景状態も制作時には完全にイメージできていたわけではありませんが、イメージしきり過ぎるのも良くなかったと思います。水景を管理していく中では、藻類が発生したり、水が濁ったりと予期しないマイナス要因もあるわけですが、水草の予期しない生長の仕方などはプラス要因でありワクワクしますね。今回の水景では予期しないというか予想を超えた水草の生長があつて、私の中では大切な作品の一つとなりました。これからもオリジナリティの高い表現を獲得するために自分の世界觀を大切に水景制作に取り組んでいきたいと思っています。



上:上:有茎草の植栽は制作コンセプトに従い色が混ざり合うようにあえて分けせず植栽。



右:Hyg.ピンナティフィダは、生長方向を確認しデラインでしっかりと固定した。



「ADA view」にて
レイアウト動画公開中

構図



MINI NA

#03

Mini NATURE AQUARIUM
MAINTENANCE GUIDE

撮影日	2024年03月8日
水槽	キューブガーデン W150×D150×H220(mm)
照明	マグネットライト G スリム(1日8時間30分点灯)
ろ過	ストリームポンプ ミニ
素材	ホーンウッド
底床	アクアソイル・アマゾニア Ver.2、バクター100、クリアスパー、トルマリンBC
CO ₂	CO ₂ システム74-DA、ペルグラス・ミニで3秒に1滴(タワー使用)
添加剤	ブライティK、グリーンブライティ・ミネラル、グリーンブライティ・アイアン、グリーンブライティ・ニトロ
換水	1週間に1度 1/2
水質	水温25°C pH:6.2 TH:50mg/L
その他	メタルカバー・ミニ、メタルベース・ミニ

DATA



小さくても本格的という 水槽システムの選択

経験者の方にはご理解いただけると思うが、小型水槽で水草を繁茂させ、維持管理することは簡単ではない。新登場のミニNAセット150は、ADA伝統のネイチャーアクアリウム・システムをベースとしているが、水量5Lにも満たない超小型水槽で、ろ過槽を使用せずに水槽内で水を循環することで、微生物と水草の浄化能力だけで環境を維持しようというコンセプトのシステムである。見た目こそ小さくて簡単そうだが、実はかなりの水槽管理能力が要求されると思っていたいただいた方がいいだろう。このシステムで



超小型水槽のためCO₂を微細な気泡にして水に溶け込ませる方法だと、CO₂過多を引き起こしやすい。また、水槽が小さいため微細なCO₂の気泡が水中に忙しく漂って観賞を妨げることも問題となる。それらを解決したのがペルグラスである。

特徴的な専用グッズが、CO₂添加器具のペルグラス・ミニ(以下ペルグラス)だ。CO₂システム74-DAよりCO₂を連続的に供給し、ペルグラス内に貯蓄されたCO₂が水と触れてゆっくりと溶け込む方式である。それゆえにペルグラスの周囲に水流が当たった方がCO₂拡散効率は良くなる。気になるのはその添加量だが「3秒間に1滴」が平均的な目安になる。なお、ペルグラスの貯蓄部から頻繁に大きなCO₂の気泡が水面に向かって出てしまうようなら、添加過多でCO₂が無駄になるので注意しよう。さて、改めてミニNAセットを眺めてみると、ステンレス製のメタルカバーとベースに収まり、CO₂システムを備えた姿は、小さいながらもリビングやデスク周りでの存在感はなかなか大きい。だからこそ、水景をきっちりと仕上げ、格別なアクアインテリアとして家族の賛同を得ることをおすすめしたい。



植物 ①ルドウジアsp.、スーパー・レッド[BIO]※ ②リオフィラムsp.、ガイアナドーフ[BIO]※ ③ペルグラス[BIO]※ ④アスピア・ナブチ[BIO]※ ⑤ローターラインデカ[BIO]※ ⑥エキドルス・テネス・プロドリーフ[BIO]※ ⑦クリプコリネ・パレバその他
生体 ヤマトヌマエビ

※はADA生体製品ラインナップです。

CREATOR WORKS

Kota Iwahori

PALUDARIUM W600 x D300 x H450 (mm)

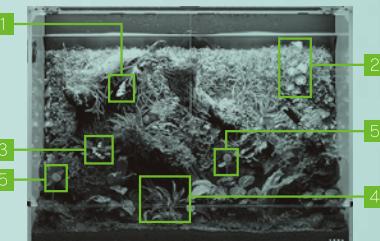


[森のアーチにて]

システムバルダ600における植栽範囲は底面や壁面のみとは限らない。熱帯植物には多様な着生植物があり、流木を効果的に組むことで空間を活かした配植が可能になる。ここでは、やや細身の枝のホーンウッドを用いて大小のアーチをつくり、開花や株姿を楽しむことができる着生植物を配植。株元には葉姿が個性豊かな植物を植栽した。それぞれの花が咲きはじめ改めて眺めてみると、まるで森の妖精たちが自然のアスレチックで遊んでいるようにも見え、ほほえましくもあるレイアウトとなった。

D A T A

撮影日	2024年5月9日
制作	岩堀 康太(ADA SUIKEI CREATOR)
水槽	システムバルダ600
照明	バルダライト600(1日8時間点灯)
底床	ジャングルソイル、ジャングルベース
給水	ミストフローボックスに2~3週間に1度
排水	高吸水スポンジで1週間に1度程度
湿度管理	ミストフローで毎時20分間
サーキュレーションファン	40で毎時5分間
時間管理	パワーコード S-70



MAIN PLANTS

- ① エリシナ・ブシラ
- ② フィカス・ブミラ "ツキヨノヒカリ"
- ③ ベゴニア・ヴァンケルコウエニイ
- ④ グッディエラ・マリボエンシス
- ⑤ ベアルケア・ヒボキルティフローラ



New Style Indoor Green

DOOAで提案するガラスケースで主に熱帯植物の育成を楽しむスタイルをさまざまな作例とともに紹介。日々の生活の楽しみとして取り入れてみては。



DATA

CASE
NEO GLASS AIR
W200xD200xH350

TERRA BASE
テラベース 230

FILTRATION SYSTEM

ストリームポンプ ミニ
テラベース フローパイプ 230

PLANT
アヌビアス・ナナ・ゴールデン、アヌビアス・コインリーフ、アヌビアス・ジェイド、ブセファランドラsp.、ブラウニーパープル、キエウイ・リレイ、南米ウィローモス、クリスマスマスモス

アヌビアス、ブセファランドラ、キエウイアなどサトイモ科植物での作例。いずれも水際に自生しており、このように組み合わせても相性も良く、苔むした清流域の倒木に着生したイメージとなる。



DATA

CASE
NEO GLASS AIR
W200xD200xH350

TERRA BASE
テラベース 160

FILTRATION SYSTEM

ストリームポンプ ミニ
テラベース フローパイプ 160

PLANT
ブセファランドラ・シンタン、ブセファランドラsp.、ブラウニーパープル、ブセファランドラsp.、クリスマスマスモス

シダやイワヒバの仲間もテラベースとは組み合わせやすい植物の一つで、ここではダバリア・トリコマノイデスをメインとしている。赤葉のセラギネラは、色彩的なポイントとして配した。



Style 03

KUMU MAKING GUIDE

#03



こだわりのレイアウトを楽しむための化粧素材「KUMU」。ここでは、それらを用いたレイアウトのつくり方や実用的なテクニックなどを、順を追ってわかりやすく解説します。

HOW TO MAKE

01



アクアソイル・アマゾニアver.2を後方半分に敷く。

02



植栽位置を考慮しながら佗び草 水辺MIX 900を置く。

03



KUMU
ブラックサンド
佗び草のベースが15mm程埋まるようにブラックサンドを全体に敷く。

04

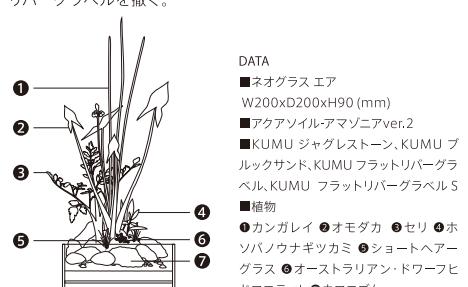


KUMU
ジャグレystone
適当なジャグレystoneにウロコゴケを巻く。

05



KUMU
フラットリバーグラベル
ジャグレystoneをバランスよく配石し、石の間にフラットリバーグラベルを撒く。



- DATA**
- ネオグラス エア W200xD200xH90 (mm)
 - アクアソイル・アマゾニアver.2
 - KUMU ジャグレystone、KUMU ブラックサンド、KUMU フラットリバーグラベル、KUMU フラットリバーグラベルS
 - 植物
 - カンガレイ ●オモダカ ●セリ ●ホソバノウナギツカミ ●ショートヘアグラス ●オーストラリアン・ドワーフヒドロコティレ ●クロコゴケ

06



水辺MIXが腰水になるように水を注水し、涼しげな佗び草レイアウトの完成。

IAPLC

CREATOR'S

FILE #14 Jiri Pova



PROFILE

ジリ・ポヴァ

Jiri Pova

年齢 / 44歳
国名 / チェコ共和国
職業 / 物理会社勤務
アクアリウム歴 / 4年
趣味 / ロッククライミング、自然散策
過去の受賞歴 /
IAPLC2021 670位
IAPLC2022 334位
IAPLC2023 15位

レイアウト制作に重要なことは 経験のある人々の意見を聞き 過去の間違いから学ぶこと

Q 水草レイアウトを始めたきっかけは何ですか？

パンデミックにより、趣味であったロッククライミングを続けることができなくなりました。じつとしていられず、何か他に楽しめることを探していました。2020年9月、子供のためにアクアリウムを制作し、そのときはこの趣味にここまでハマるとは思っていませんでした。私はどんどん器具を買い込み、より性能のいいものを求めるようになりました。そして夢になりました。アクアスケーピングを通して関わる人々や彼らの助言のお陰です。愛好家の方々が多くを共有しアドバイスしてくれることをうれしく思っています。

Q 水草レイアウトのどのようなところに魅力を感じますか？

石組レイアウトが大好きです。シンプルで純粋で、そしてなにより自然的です。

Q 今回のレイアウトのテーマやモチーフ、アイデアはどこから得ましたか？

自然の中でアイデアを得ようと心がけています。最終的な目標は長期的な水景維持です。長期維持された水景の趣きが好きですし、自分でも挑戦したいと思っています。ADAの本間 裕介さんの作品がとても好きです。

Q レイアウトを制作していく過程で、苦労した点や工夫した点はありますか？

幸いにも大きな難点はなく、何か解決策を



愛用のADA製品たち。「プロツールバッグ II」と「ソーラーRGB リミテッドエディション」がお気に入り。



世界トップレベルの水草レイアウトコンテストである「IAPLC」。このクリエイターズファイルでは、その上位入賞者にインタビューを行い、上達の秘訣や水草レイアウトに対するこだわりを紹介いたします。

ジリ・ポヴァさんのSNSアカウント



「終結」 Aquarium Size W1,200×D500×H600(mm)

水 草: グロッソスティグマ / ヘアーグラス / エリオカウロン sp. ソーシャルフェザーダスター
魚 種: レッドノーズテトラ / サイアミーズフライングフォックス

模索する機会はありませんでした。自分の持っている技術と知識で完成しました。

Q 水草や魚種の選定する上のポイントについて教えてください。

エリオカウロン sp. ソーシャルフェザーダスターのような爽やかで自然的な水草を探していました。水景全体に合うように、魚は後で選ぶようにしています。応募作品においては、水槽の端から端へ群れて泳ぐ魚を選定しました。

Q レイアウト制作でいつも心がけていることがありますか？

考えていることは頭の中にたくさんあります。いつもまず浮かぶのは、過去の間違いに

ついであり、それを繰り返さないようにしています。そしてもちろん、底床にはADA製品のラインナップの使用することが自分の中のルールで、上位入賞に欠かすことができない要素だと考えています。

Q コンテスト入賞の秘訣はありますか？

秘訣はありません。けれども、目標を決めてそれに向けて進まなくてはなりません。自分を信じ、全力を尽くしかありません。

Q IAPLCに応募するきっかけ、また、醍醐味はどんなところにあると思いますか？

私にとってIAPLCは最大のコンテストであり、制作のアイデアを得ることのできる場所

です。たくさんのスタイルがあり、それが競争をより多様にしています。私の主な目標は、可能な限り水中にありそうな自然な水景をつくることです。

Q 世界中の水草愛好家の皆さんにメッセージをお願いします。

夢に向かって進んでください。そして水草レイアウトの制作はこの上ない喜びだと思います。自分だけやってみることも良いでしょう。しかし、それよりもっと良いことは、経験ある人々の意見を聞くことです。そして、自分の間違いや誤りから学ぶことを心掛け、より腕を磨きましょう！



渓流の風景からは石組のアイデアを得やすい。



植栽前のシミュレーションの様子。石組レイアウトでは特に構図と草丈とバランスを慎重に考える必要がある。

創造の人・天野 尚の軌跡。文／阿部 正敏

超大判フィルムの世界

第1回 ADA本社3,500mm水槽（1995年撮影）

フジクローム・ベルビア（RVP）8×20 in

※このページではカラーリバーサルフィルムの色をできるだけ忠実に再現し、
实物の約70%の大きさに縮小した画像を掲載しています。

天野 尚と愛用の大判カメラ
① 8×20 in ② 8×10 in
③ 11×14 in ④ 4×5 in ⑤ 5×7 in



天野流水景写真の始まり

ネイチャーアクアリウムの創始者である天野 尚（1954-2015）は、水景写真の第一人者でもあった。世界の水草愛好家に大きな衝撃を与えた一作目の水草レイアウト作品集『ガラスの中の大自然』が出版されたのが1992年。この作品集に掲載された水景写真は、すべて一人でレイアウトを制作して撮影したものである。天野が本格的に

水景写真を撮り始めた時期は定かではないが、1970年代の初頭に最初の一眼レフカメラ（ニコンF2フォトミック）を手に入れたころから水槽の魚を撮影していたことは間違いない。その後、水草栽培の研究を進め、独自の水草レイアウトスタイルを確立していく過程で、水槽の記録としての写真から作品としての水景写真に進歩していった

ものと考えられる。作品としての完成度を高めるため、カメラは一般的な35mm判から中判カメラ、大判カメラへと大型化し、撮影のための光源も蛍光灯からより大光量で発色の良いストロボへと変化していく。こうした写真の撮影技術について、天野は神田の古書店街で参考になりそうな書籍を買い集め、独学で習得したと述懐している。



大判フィルムにこだわった理由

通常、4×5 in判以上のシートフィルムが大判フィルムと呼ばれる。天野は、本誌『アクア・ジャーナル』が創刊された1994年前後から、ほぼすべての水景写真を8×10 in判以上の大判フィルムで撮影してきた。現在では、デジタルカメラの普及と高性能化によってフィルムカメラは完全に懐古趣味の世界となった感があるが、1990年代は

オートフォーカスの一眼レフカメラやコンパクトカメラなどのフィルムカメラが隆盛を極めていた。しかし、そんな時代であっても、大判フィルムを使用するカメラは高価で撮影も難しいため、一部のプロやハイアマチュアが使用する極めて特殊な存在だった。では、なぜ天野は大判フィルムにこだわったのだろうか。その理由は、水草の生長などで

常に変化し続けるネイチャーアクアリウムでは、最も美しい状態の水景は一期一会と言え、その最高の水景を最高の品質で半永久的に保存したいと考えたためである。約30年の時を経ても色あせることなく、水景の美しさを忠実に伝えてくれる超大判カラーリバーサルフィルムは、天野の考えが正しかったことを雄弁に物語っている。

超大判カラーリバーサルフィルムは、そのまま透過光で見ても美しいが、ルーペで拡大してみるとその圧倒的な描写力が実感できる。右の画像はフィルムの原寸から約3倍に拡大したので、ヘアグラスの繊細な葉がシャープに描写されていることや、アラボテの鱗や追星まで緻密に描写されていることがわかる。ちなみにこの水景は、ADA本社エントランス3,500mm水槽の初代水景である。



水草道!

森林浴

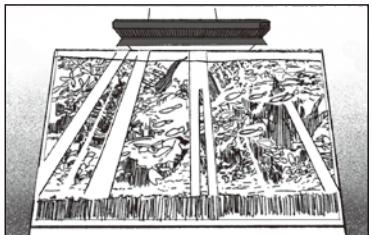
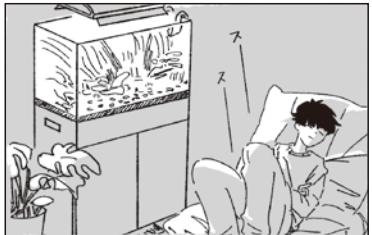


Illustration / Hayase Kato

STAFF CREDIT

Publisher
天野 しのぶ

Art Direction
NATURE AD DESIGN

Design
丸山 健司／市川 亮／高遠 将史
板橋 広夢／加藤 順世

Editor
松本 隆介／岩堀 康太

Supervisor
大岩 剛

Photo Supervisor
阿部 正敏

Published by
株式会社 アクアデザインアマノ
<https://www.adana.co.jp>

Printed by
株式会社 山田写真製版所



NEXT AQUA JOURNAL
AUG. 2024 vol.346
2024年7月10日(水)発売予定

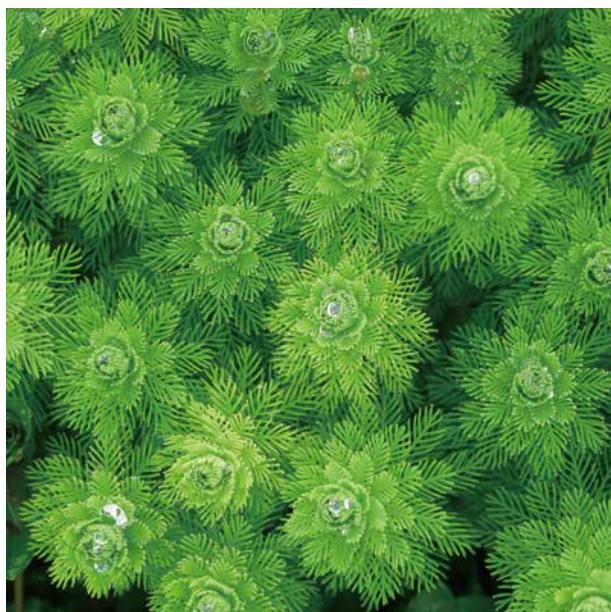


アクアジャーナルの情報は一部
ADAホームページで公開しています。
AQUA DESIGN AMANO CO., LTD.
©2024 Printed in JAPAN

日々植物の育成に勤しむ松本 隆介の視点で、毎月ひとつ植物を紹介します。

PLANTS PORTRAIT

Photo & Text / Ryusuke Matsunaga



Myriophyllum sp.
オレンジミリオフィラム

朝の伸び草ハウス内、さまざまな水草が競うように生長していました。水滴の付いたミリオフィラムの姿は、まるで顔を洗った後のような清々しさ。生きる力にあふれています。葉の艶、勢い、その輝くような生命力は、健康そのものです。その日は夜更かしていただけに、ミリオフィラムがいつも以上に健康的で溌漫と見えました。

アマゾン回顧録

Text / Tsuyoshi Ohwa



このコンゴウインコが描かれた川龜の甲羅絵は、天野尚が一瞬で気に入っていたと記憶している。アマゾンの行き先々で、こうしたモノを見かけたが、どれもアマゾンの動植物がモチーフになっていて、自然と共にスローに生きるインディオたちの価値観や美意識を感じ取ることができた。でもあれ、今生きる私たちの社会は複雑で高速過ぎではないかと思う今日この頃である。

INFORMATION

「アクア・ジャーナル」は創刊30周年を迎えました。

1994年6月1日にネイチャーアクアリウム情報誌として創刊した月刊『アクア・ジャーナル(AJ)』は、本号で創刊30周年を迎えることができました。読者の皆様はもちろんのこと、本誌と共にネイチャーアクアリウムの啓蒙にご協力いただいた販売特約店の方々に心より感謝申し上げます。思えば誰もがグロッソスティグマの絨毯やリシアの気泡に憧れ、革新的なネイチャーアクアリウムの水景シーンに心躍らしていた30年前、ネイチャーアクアリウムを楽しんでいたためには正しい水草育成方法の情報発信が必要という天野尚の考えにより、借り上げた古い農家にマッキントッシュや撮影機材を持込み、にわか編集者ばかりでAJはスタートしました。記事にする水草育成ノウハウは、天野尚に習いながらの連日連夜

ドタバタの編集作業でしたが、自分たちの経験だけを頼りに一つひとつノウハウを構築していくことはADAの製品開発の基礎にもなったように思います。そして30年、その途中で私たちは天野尚との別れというこれ以上の悲しみを経験しましたが、ネイチャーアクアリウムの自然貌やその技法は5人のADA水景クリエイターに受け継がれ、主にAJでの作品紹介を経て新たなネイチャーアクアリウム世代を生み出しています。そして今、SNS、デジタル全盛期の中で紙媒体のAJの役割も限られてきていることは確かですが、どれだけ世の中が変わろうとアナログ独自の価値が備わったADAの情報誌として走り抜きたい、と思っています。今後とも引き続きご愛読いただければ幸いです。(AJ最古参 大岩剛)



MAGNET LIGHT G SLIM [NEW]

マグネットライトG スリムは、ミニマルなデザインにこだわり、マットな質感でなめらかな塗装仕上げを実現。また小型化と軽量化を図り、本体の厚みがこれまでの19mmから12mmへとさらに薄型になりました。ネオグラスエア、CELLなどと組み合わせてご使用ください。

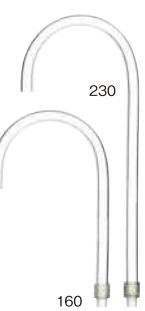
サイズ: Ø90、H12mm 価格: ¥8,250(税込)
※調光ボタンにより6段階の光量の調節が可能です。
※USB電源アダプターは付属していません。
市販の5V2AのUSB電源アダプター(Type-A)を別途お求めください。



TERRA BASE FLOW PIPE [NEW]



テラベース フローパイプは、ストリームポンプ ミニに接続する専用パイプでテラベースに設置します。テラベースに着生させたモスや植物への給水に加え、植物に水滴がしたたる視覚的な演出も楽しめるようになります。



テラベース フローパイプ 160
価格: ¥1,540(税込)
テラベース フローパイプ 230
価格: ¥1,650(税込)

*全国のADA販売特約店でお求めください。

期間
限定

佗び草水辺

Mix

今年も期間限定にて佗び草水辺MIXを販売いたします。

情緒あるオモダカやカンガレイに加え、

今年はさらに身近な水辺の植物であるセリが植栽されており清涼感がアップしました。日本産の植物をスイングランツに使用しているため、加温しなくとも楽しめます。新素材のKUMUシリーズ合わせて、水辺の雰囲気をお楽しみください。

佗び草水辺MIX 900 オープン価格



佗び草 水辺MIX 900 / DOOA ネオグラスエア W300×D180×120 (mm) / KUMU ST-02 オウコストーン / KUMU SA-03 アイボリーサンド

ADA
aqua design amano